



広島県支部会報



平成27年6月18日

第75号 「みんなで減災」県民総ぐるみ運動

日時：5月23日（日）10時～12時
場所：福山市広島県民文化センター
主催：広島県
共催：国土交通省中国地方整備局
参加者：350人

県民総ぐるみ運動は県内3ヶ所で開催された。5月16日（広島市）、5月23日（福山市）、5月30日（三次市）で開催された。本報告は福山市で開催された様子を報告する。

1. 主催者挨拶

昨年8月20日発生した「広島土砂災害」を教訓として「災害死ゼロを目指す県民総ぐるみ運動」を展開するものであり、行政、市民・町民、関係機関等全県民が防災に対する意識、備えや行動の一段の強化向上が必要である事が話された。

2. 基調講演：“はじめよう！進めよう！「みんなで減災」県民総ぐるみ運動”

講師：山口大学大学院准教授 瀧本浩一氏

(1) 災害から身を守るための行動

- ①「知る」：災害には事後対応型（地震、津波）と事前対応型（大雨、洪水、土砂災害）がある。
いずれにも身を守る、避難する、事前準備する、情報入手・伝達、避難所運営などを知る事
- ②「察知する」：特に気象・防災情報の早期取得で危険を察知する、また土砂災害危険度情報を早く、正しく察知する事
- ③「行動する」：迅速な安否確認、避難の確認、避難を知らせる合図、集中豪雨の対応の周知、地域の避難所、避難経路の決定など早く行動する事

(2) 普段から災害に備えるための行動

- ④「学ぶ」：地震、津波防災マップ、土砂災害マップ、洪水ハザードマップにより、震度分布図、津波浸水による危険度を学ぶ。土砂災害の危険度、さらに洪水による浸水危険度を知る
- ⑤「備える」：住民の防災力向上のための知識を得るための講習、研修会の受講、身を守り、救出、誘導、避難行動の訓練、非常持出品の装備、連絡先の確認など

(3) 運動から持続的活動のために

- ①地域行事とのマッチング：生徒と保護者と地域との連携協力による地域安全防災体制を築く
- ②小・中学校/地域の運動会の利用：生徒・保護者、地域住民が防災拠点（学校）で訓練を行う

3. 事例発表：“地域の防災力を高めて自然災害発生時にみんなで助かろう”

講師：福山市駅家東学区 自主防災会長 吹矢祐二氏（防災士）

- (1) 自分が住む地域の危険性を知っておき災害時の被害を軽減する！気象状況に注意し、危険状況を早く感知、早めに避難する
- (2) 平穏な備後地方も340年も遡れば芦田川の決壊した史実もある
- (3) 日本は地震列島だ。M6以上の地震は国土の0.25%の日本で、世界の20%以上も発生している。
- (4) 昨年の「広島土砂災害」について被災100人調査；①避難勧告90人知らぬ、②土砂災害60人危険意識なし、
③危険を感じ避難を考えたが諦めた50人 → この結果を教訓として地域防災強化に活かす！
- (5) 自分の居場所の危険性を知る、危険情報に注意し、危険が迫る前に早く避難する事
- (6) 防災訓練、避難訓練は何度も繰り返し参加する事で防災意識を高め、防災力を強化する

(7)近い将来「南海トラフ巨大地震」が想定されている。また豪雨災害もいつ発生するか分からない。
防災には始めはあっても、終りはない。地域全住民の命を守ろう！

4. 講演者写真



基調講演 瀧本浩一山口大学准教授



事例発表 吹矢祐二防災士



事例発表 福山市消防団女性分団 「命を守る 知ってよかった防災知識」防災寸劇

あとがき：

「みんなで減災県民総ぐるみ運動」がスタートし、我々防災士の取り組み、連携、地域への啓発、支援活動の見直し、活動の充実が期待されている。行政や関連機関と協力して市民、県民が安心できる体制を確立する事が必要である。

5月16日（土）は広島地区（広島市青少年センターホール）で開催され、基調講演は 瀧本浩一先生が行われ、事例発表は 柳迫長三防災士が“8.20 広島豪雨災害での自主防災活動について”講演した。

（広報 桑木光信）